

第 I 章

健康づくりへの取り組み



江南市マスコットキャラクター
ふじか
藤花ちゃん

健康で暮らすことは、みんなの願いです。我が国の平均寿命は、昭和 59 年以降世界最高の水準を維持していますが、健康寿命の延伸と生活の質の向上をめざした施策が重要視されています。

国は、昭和 53 年から、10 年を 1 期とする「国民健康づくり対策」を進めてきました。第 3 次国民健康づくり対策となる『21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）』（平成 12 年 3 月策定）では、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上の実現をめざした取り組みを進めてきました。

また、平成 12 年 11 月には『健やか親子 21』を策定し、母子の健康づくりへの取り組みも進めてきました。

健康日本 21 は、13 年間（平成 12 年度～平成 24 年度）にわたり進められてきましたが、この間にも人口の少子高齢化が進み、社会経済環境の変化や疾病構造の変化など、これまで以上に広い視点での健康づくり対策が必要となっています。今まで、主に一人ひとりの生活習慣の改善等による「1 次予防」の推進を基本的な考え方としてきましたが、個人の努力だけでは解決できない社会環境との関係にも着目した健康づくりが必要とされています。こうした背景から、健康日本 21（第 2 次）では、個人の健康づくりと社会環境の整備を両輪とし、全ての国民が共に支え合い、健康で幸せに暮らせる社会の実現をめざしています。

2

県の施策の動向

国の健康日本 21 を受け、県は平成 13 年 3 月に『健康日本 21 あいち計画』を策定しています。この計画では、健康寿命の延伸や親と子が健やかに暮らすことができる社会づくりのため、県民や健康づくりを推進する関係者が取り組むべき具体的な目標を設定しています。

平成 19 年度には、医療費適正化計画との整合性を図るため、メタボリック・シンドロームの概念を導入した生活習慣病対策が追加されています。

3

江南市の施策の動向

市は、国の健康日本 21 及び県の『健康日本 21 あいち計画』を受け、平成 16 年 3 月に『健康日本 21 こうなん計画（第 1 次）』（以降、第 1 次計画と表す）を策定しました。計画では、「健康で思いやりと幸せあふれるまち」を実現するため、一次予防を重視した施策をライフステージごとに体系化しています。また、行政、地域、団体、職場、学校、医療機関などが連携して施策を進める体制の構築をめざしてきました。



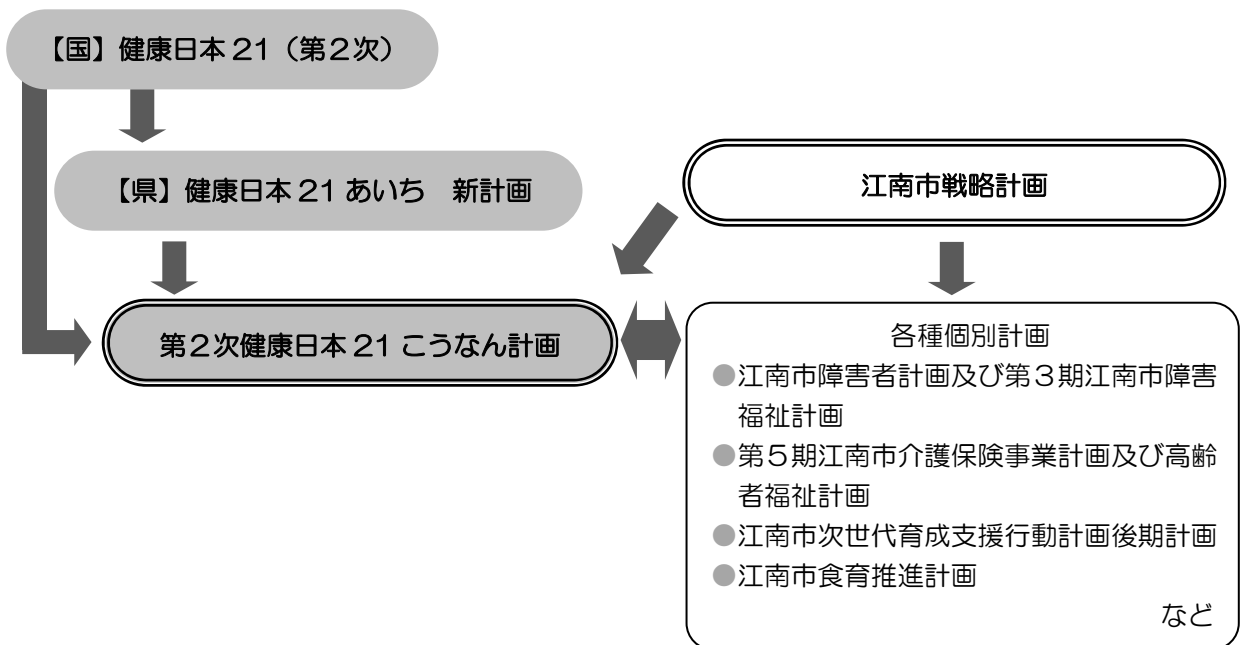
4 計画の性格と期間

(1) 計画の性格

この計画は、国の「健康日本 21（第2次）」、県の「健康日本 21 あいち 新計画」を踏まえて策定したものです。

この計画は、健康増進法に規定されている市町村の健康増進計画としての位置づけをもつものです。

この計画は、第1次計画の成果を検証し、さらに効果的な施策を進めるために策定したものです。



(2) 計画の期間

この計画の期間は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 か年とします。

計画の中間年度となる平成 29 年度には、目標の達成状況等の中間評価を行います。

平成 16 年度		24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	平成 34 年度
	第1次計画											
			第2次計画									
							中間 評価					

